

課題名

卵巣癌再発後の長期生存に関する多施設後方視的検討

概要

医学の進歩は著しく、婦人科がんの治療も日進月歩ではありますが、依然卵巣癌は完治が難しい疾患です。特に再発した場合は、完治を目指すことは困難とされています。

卵巣癌が再発した場合、手術や抗がん剤を組み合わせる治療を行いますが、手術は負担が大きい手術になることが多く、手術が選択されない場合も沢山あります。しかし一般に「がん」は抗がん剤だけで完治する事が困難であるとされており、手術を「適切に」選択することが病気の制圧に重要であるとされています。

卵巣癌を発症しその後再発してしまった患者さんにとって、いつ、どの様な手術を、どの様な患者さんに対して行うことがもっとも患者さんの利益になるのか、といったことは依然十分に解明されていません。

そこで、多施設で共同して過去の治療データを解析することで、これらの未解明な問題点を解明する為の疫学研究を行います。

対象

1998年1月から2019年7月までに当院で卵巣癌・卵管癌・腹膜癌として治療された患者さん

共同研究機関

京都大学医学部附属病院、近畿大学医学部附属病院、静岡県立総合病院、大津赤十字病院、滋賀県立総合病院、長浜赤十字病院、独立行政法人国立病院機構 京都医療センター、京都 桂病院、公益財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院、独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター、大阪赤十字病院、大阪府済生会 野江病院、神戸市立医療センター 中央市民病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、公益財団法人 天理よろづ相談所病院、日本赤十字社和歌山医療センター、公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院、高松赤十字病院

疫学研究の情報公開について

疫学研究とは、人の病気の原因・病態の解明、および予防・治療の方法の確立を目的とする研究です。公立豊岡病院組合立豊岡病院 産婦人科では、過去の診療記録より得られた情報を利用して、現在まで行われた婦人科癌の診断・治療の評価を行い、そしてより良い診断・治療法を確立し患者さんに還元できるように、疫学研究を行っています。

疫学研究は、公立豊岡病院組合立豊岡病院 倫理委員会の承認を得た後、研究責任者の管轄のもとに行われます。当院にすでに記録されている臨床情報をもとに行われるため、対象となる患者さんにあらたにご負担をおかけすることはありません。また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、対象者のプライバシーは十分に尊重され、患者さん個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません。

もし、疫学研究にご自身の臨床情報を使用されることに同意されない方は、下記までご連絡ください。解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも、診療上であなたが不利益を被ることは一切ありません。また研究に関して、ご不明の点がございましたら、いつでも病院までお問

い合わせください。

連絡先

公立豊岡病院組合立 豊岡病院 産婦人科 住友理浩
電話 ; 0796-22-6111(代表)